

高校生で起業した果物とお菓子の店、 おいしい果物でみんなを笑顔にしたい

この記事を読んでアンケートに答えると
果物とお菓子のお店「華果」
りんご飴サービスチケットが当たる!!
詳しくは、8ページのQRコードから!

株式会社 Soffione
代表取締役社長 薄井 華香さん

傷があるだけで捨てられてしまう 大量の青果を何とかしたくて起業を決心

経堂農大通り商店街にある果物とお菓子の店『華果』を運営する薄井華香さんは現在18歳。石川県出身で、通信制の高校入学と同時に上京し、わずか3か月後の2021年6月に起業して高校生社長になりました。「私の実家は70年以上続く青果の仲卸業を営んでいて、子どもの頃から野菜の袋詰めなどの手伝いをしていました。その時にいつも目にする光景が、中身や味は問題ないのに、傷が付いていたり、見た目が悪かったりして捨てられてしまう大量の野菜や果物。それらを何とかしたいという思いはあったんですけど、当時は何もできなくて……」。

中学3年生で進路を決めるにあたり、地元で行きたい高校がなかった薄井さんは、実家の仲卸業を手伝いたいと父親に相談しましたが、東京へ行きなさいと言われたそうです。「薄井家には、中学を卒業したら自分の世界を広げるために家を出るというルールがあり、とりあえず目的もなく東京に来ました」。上京当初はまだ起業を考えていなかった薄井さんですが、青果がどうやって売られているかを見たくてスーパーでアルバイトを始めたことが大きな転機に。「仲卸で選別して規格外の青果を大量に捨てて出荷しているのに、スーパーでもまだ食べられるものがちょっとした傷があるだけで捨てられてしまう。農家で、仲卸で、スーパーで、家庭で、どれだけ捨てられているのか考えると、今すぐ食材の廃棄を止めるために動かないといけなと思って、起業を決心しました」。

フードロスをなくしたいという思いで起業し、フルーツ大福専門店のフランチャイズからスタート。「スーパーでの約3か月間しか社会で働いた経験がなかったので、まずフランチャイズを通して経営の勉強をしようと思ったんです」。薄井さんが小さな頃から親に連れられて行き、家族のようにかわいがってもらった農家から、規格外だけおいしい果物を譲り受けて、フルーツ大福の製造販売を始めました。



経堂の店舗は親が持っていた物件を借りている。家族やまわりの人たちにサポートしてもらえたからこそ、高校生で起業することができた。環境に恵まれたおかげだという薄井さん

日本一おいしい果物を提供する フルーツブランドを目指して

フランチャイズ開業の1年半後、2022年12月に独立して、自社ブランド『華果』を立ち上げ、りんご飴をはじめとする果物を使ったスイーツの専門店をオープン。「自分が最高においしいと思った果物と、みんなが大好きなスイーツを掛け合わせれば、きっとお客様に喜ばれると考えました。果物ってこんなにおいしかったんだと気づいてもらえたら嬉しいです」と薄井さん。果物本来の味を評価してほしいという思いから、あえてフードロスをうたうのをやめ、興味をもってくれたお客様には話すようにしているそうです。また、極力お店からは廃棄物を出さないようにも心がけているとか。「その日に作ったものを売り切っているため、もし残ってしまったら、商店街の飲食店などに配っています。飲食店だとお客様に出してもらえるので、食べてみた方が、おいしかったからと言って買いに来てくださることもあるんですよ」。

今後の展開としては、りんご飴のキッチンカーを出して、経堂の店への集客効果につなげること。さらにキッチンカーをフランチャイズ化させたいといいます。「最終的な目標としては、果物なら『華果』で買えば絶対おいしくて間違いない、と言われるような果物屋を目指しています。スイーツをきっかけとして果物のおいしさを伝え、日本一おいしい果物を扱うフルーツブランドになりたいという思いがあります」。そのために国内外の農家とたくさんつながり、どんなに遠くても産地まで行って生産者の思いを直接

聞き、最高においしい果物を届けたいと考えている薄井さん。「農家さんとお店のスタッフと、お客様と、関わる人すべてが笑顔になれるような商品を提供できるお店をフランチャイズで増やしていきたいですね」。



飴を付けることで、りんご1個まるごとおいしく食べられてしまうから、りんご本来の甘味を引き出すフレーバーを日々試行錯誤している



地元である石川県の農家を支援するため、【能登半島地震支援】石川野菜セットを「華果」のオンラインショップで販売中

株式会社 Soffione | 経堂1-26-11
TEL : 090-9447-6950 <https://hanaka.theshop.jp/>

